









標本 No	部位・形状の特徴	質態・流線の特徴	色調	筋 走	備考
261 K7-98	口縁部。完成状。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。口縁部～内；ナテにより平直。	外；淡い黄褐色。内；黄褐色。	縦直。縞筋少量。	
262 K9-9	口縁部。完成状。	外内；ナテにより平直。	外；淡い黄褐色。内；黄褐色。	縦直。やや粗の石炭・灰石の混入が多い。	
263 K2-504 K5-36	口縁部。内側平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口縁部～内；ナテ。	外；黄褐色～茶褐色。内；黄褐色～茶褐色。	縦直。石炭・石炭質の混入が多い。縞筋少量。	
264 K25-53	縞部（完成付直）	外；異方向織文 L.R.	外；内；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。石炭・石炭質の混入が多い。	263 と同一個体。
265 K8-5	口縁部。内側平直。完成状。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直（縁部傾直～黄直）L.R.。口縁部～内；ナテにより平直。口縁部約 0.5p 傾直部。内；口縁部約 1cm 傾直部。以下平直。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
266 K28-10	口縁部。完成状。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部不明。口縁部ナテ。内；口縁部傾直ナテにより平直。以下平直。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。砂粒。白色不透明な石炭・石炭質の混入が多い。	
267 K28-56	口縁部。内側平直。口唇部は平らに彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部異方向織文 L.R.。縁部ナテ（縞部が欠けている）。口縁部縁面傾直ナテにより平直。口唇部～内；ナテにより平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
268 K24-60	口縁部。内側平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部～内；ナテ。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋。白色不透明な石炭・石炭質の混入が多い。	
269 K28-1	口縁部。内側平直。取られ。内側平直にする。	外；口縁部縁面傾任直（太い筋か?）。縞部織文が粗直文。口縁部～内；ナテにより平直。以下傾直部。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	259 と同一個体と思われる。
270 K28-57	口縁部。内側平直。内側平直。内側の口唇部下下に彫刻による凹線状の溝が認められる。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。口縁部異方向織文ナテにより平直。内；口縁部傾直ナテにより平直。以下傾直部。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
271 K28-64	口縁部。内側平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部異方向織文 L.R.。口唇部～内；口唇部傾直ナテにより平直。以下平直。	外；淡い赤褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
272 K7-98	口縁部。内側平直に近い。口唇部は丸くなる。	外；外縁面傾直～口縁部縁面傾任直 L.R.（縁部前方下平直に分かる）。口唇部は丸くなる。口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下傾直部。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
273 K24-66	口縁部。先端平直の口唇部が外反する。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
274 K28-66	口縁部。内側平直。外側が粗直。内側の口唇部も粗直とする。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。縁部前方下平直に分かる。口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下傾直部。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋。	
275 K28-48	口縁部。角状。外側がやや平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
276 K28-49	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
277 K8-57	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；内；茶褐色。	縞直。縞筋多い。縞石炭の混入が多い。	
278 K28-56	口縁部。口唇部は角状。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
279 K28-32	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部異方向織文 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
280 K28-45	口縁部。角状。内側平直になる。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
281 K3-10	口縁部。口唇部は内側平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
282 K28-10	口縁部。口唇部は角状。	外；口唇部縁面傾任直 L.R.（太い筋を若干帯びている）。内；ナテ。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
283 K28-35	口縁部。口唇部は角状。	外；外側ナテにより平直。口唇部縁面傾直ナテにより平直。内；ナテ。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・石炭質の混入が多い。	
284 K28-15	口縁部。口唇部は角状。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；茶褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
285 K3-19	口縁部。丸くなる。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.（縁部前方下平直に分かる）。口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下傾直部。	外；内；赤褐色。	縞直。縞筋。	
286 K28-45	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
287 K28-17	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。	
288 K28-41	口縁部。内側平直。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部前方内直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
289 K28-55	口縁部。内側平直。	外；口縁部約 3.5p まで傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；内；黄褐色。	縞直。縞筋。	
290 K28-43	口縁部。角状。	外；口唇部約 2.5p 傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；内；茶褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
291 K28-43	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口唇部約 2.5p 傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
292 K28-43	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口唇部約 2.5p 傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
293 K28-43	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口唇部約 2.5p 傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
294 K28-10	口縁部。口唇部は丸く。やや内側平直に彫刻される。	外；口唇部約 2.5p 傾直部～口唇部縁面傾任直 L.R.。口唇部～内；ナテにより平直。以下平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
295 K28-53	縞部（上手）。	外；口縁部縁面傾任直 L.R.。縁部織文（異方向織文）になると考えられる。内；縞部織文ナテにより平直。	外；黄褐色。内；黄褐色～淡い茶褐色。	縞直。縞筋少量。	
296 K28-54	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；内；明茶褐色。	縞直。縞筋多い。縞石炭の混入が多い。	296 と同一個体と思われる。
297 K28-54	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；内；明茶褐色。	縞直。縞筋多い。縞石炭の混入が多い。	
298 K28-55	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；黄褐色～茶褐色。内；明茶褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
299 K28-55	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；茶褐色。内；明茶褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
300 K28-55	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；内；黄褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
301 K28-26	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；内；黄褐色。	縞直。縞筋。縞石炭の混入が多い。	
302 K28-26	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；淡い黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋・縞石炭の混入が多い。	
303 K28-43	縞部。	外；異方向織文 L.R.（縞部～傾直部）。内；縞部織文ナテにより平直。	外；黄褐色。内；黄褐色。	縞直。縞筋少量。白色不透明な石炭・石炭質の混入が多い。	

種目 No.	出 産 地	部位・整形の特徴	飼養・飼料の特徴	色肉	筋 十	備考
300	KR-46	豚肩	外：異方向織文L.R. 内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
305	KR-46	豚肩	外：異方向織文L.R. ナテ。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。白色不透明粒子多い。脂肪少量。	
306	KR-56	豚肩	外：異方向織文L.R. (広張度浅く) ナテにより平滑。内：ナテより平滑。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
307	KR-45	豚肩	外：異方向織文L.R. (広張度浅く) ナテにより平滑。内：ナテより平滑。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
308	KR-55	豚肩	外：異方向織文L.R. 内：横筋。ナテにより平滑。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
309	KR-62	豚肩	外：斜位筋体正直 Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
310	KR-10	豚肩	外：浅い異方向織文 R.L. (縦位一横位) ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
311	7F-98	豚肩	外：異方向織文 R.L. (縦位一横位)。内：浅い縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
312	64-6	豚肩	外：異方向織文 L.R. (縦位左から縦位・横位・横位・縦位・横位) 縦位・横位は細く織文される。内：縦筋一横筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
313	KR-66 KR-66 KR-53	豚肩(下半)	外：異方向織文 R.L. (横位) 口縁部一縦筋。横位の横筋は正直が強く織り。内：細い縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
314	KR-35	豚肩	外：異方向織文L.R. 内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
315	K7-42	豚肩	外：異方向織文L.R. 縦筋上方部に斜位筋直線あり。脂肪の厚み不明。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
316	KR-45	豚肩	外：異方向織文L.R. 内：横筋一縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
317	KR-37	豚肩	外：異方向織文 L.R. (縦位・横位) ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
318	KR-55	豚肩	外：非対称織文L.R. → L.R. 内：縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
319	K7-99	豚肩	外：異方向織文 L.R. (縦位一横位)。内：ナテにより平滑。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
320	KR-6	豚肩	外：異方向織文 L.R. (縦位一横位)。内：縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
321	K7-23	豚肩	外：織文 L.R. の帯状織文。内：縦筋。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
322	KR-53	豚肩(下半)	外：異方向織文 L.R. ナテ (縦位近く) は織文となるよう、ナテにより平滑。内：帯状織文。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
323	KR-35	豚肩。小平皮に近い肉質。	外：異方向織文 L.R. 底面織り。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
324	KR-46	豚肩。豚肩から約2.5cm横筋を要すにはほぼ織文になるが、太さ不明な織り残りの部分もある。縦筋の横筋孔あり。	外：口縁部下約2.5cm横筋あり(縦筋より若干広い部分もある)。口縁部よりナテより平滑。横筋は織文。横筋の一部分のように見える部分がある。ナテ部分より粗筋に付いている部分と若干異なる。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
325	KR-37	豚肩	外：斜位筋直線。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
326	KR-36 KR-53	豚肩。先細り状。口縁部は丸く太くなる。	外：口縁部横筋直線 L.R. 斜位筋直線 (角状工具を斜めに削り)。内：口縁部・内：約1.5cm ナテにより平滑。内：やや内凹したナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
327	KR-26	豚肩	外：斜位筋 (角状工具を斜めに削り)。小筋のたためずまだ、縦筋が太く織り。中央は斜位に斜位が交差するようになっている。(ナテ)	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
328	KR-36	豚肩	外：斜位筋 (即ち不明) ナテ (部分的に斜位が織れている)。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
329	KR-26	豚肩(下半か?)	外：横筋・縦筋 (角状工具を斜めに削り)。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
330	KR-45	豚肩。口縁部はほぼ平滑で口縁部下に縦筋が織り込まれている。	外：縦筋下直線に角状の縦筋直線。口縁部下約2.5cm横筋あり。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。口縁部より粗筋に付いている部分と若干異なる。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
331	KR-14	豚肩	外：小筋の縦位筋交わり(三角形を写す)。縦筋ナテにより平滑。口縁部上・下横筋直線 ナテにより平滑。内：縦筋一ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
332	KR-31	豚肩。太腿。口縁部縦筋の直線が外側面に沿って細くむらむらに外突する。	外：口縁部縦筋の直線・太腿の Y.R. (内凹は Y.R. か?) ナテにより平滑。内：縦筋一ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
333	K7-92	豚肩。外側に肉厚を減じながら口縁部は丸く太くなる。肉質良好。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
334	KR-54	豚肩。肉質。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
335	KR-56	豚肩。口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
336	KR-53	豚肩。口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
337	KR-26	豚肩。肉質良好。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
338	KR-46	豚肩。肉質良好。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
339	KR-36	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
340	K7-99	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
341	KR-26 KR-45	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
342	KR-7	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
343	KR-37	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
344	KR-37	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
345	KR-37	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
346	KR-43	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
347	KR-26 KR-45	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
348	KR-26	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
349	KR-16	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
350	KR-48	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	
351	KR-26 KR-45	豚肩。肉質良好。横筋先細り状で口縁部が丸く太くなる。	外：口縁部縦筋直線 Y.R. 太腿の Y.R. ナテにより平滑。内：ナテ。	外：赤褐色。内：黄褐色。脂肪少量。	豚肩。脂肪少量。	



種別 No.	出土 地点	部位・形状の特徴	調査・装飾の特徴	色調	胎土	備考
396	K7-77	胴部。	外：ナゲにより平滑。内：縦線状一帯の縦線。	外：濃い赤褐色。底面、胎粒・磁石異状。内：黄褐色。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
397	K8-55	胴部。	外：ナゲにより平滑。内：ナゲ。	外：黄褐色・赤褐色。胎粒少量。内：黄褐色。	黄褐色。胎粒少量。	
398	K8-17	胴部。外周部凸目立つ。	外：ナゲにより平滑。内：縦線状・平滑。	外：濃い赤褐色。胎粒・磁石異状。内：黄褐色一帯縦線。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
399	K8-27	胴部。	外：弱い縦線状一ナゲ。内：縦線状。	外：内：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
400	K8-37	胴部（下半）。外外面凹線調査による凸目立つ。	外：内：ナゲ。外面下部縦線。	外：黄褐色・赤褐色。胎粒多量。胎粒多量。胎粒多量。	黄褐色。胎粒多量。	
401	K8-55	胴部。	外：ナゲにより平滑。内：縦線状・破片下縦線。	外：赤褐色。内：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
402	K8-45	胴部。	外：弱い縦線状。内：ナゲ。	外：黄褐色。内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
403	K8-104-K E-56	胴部（下半）。	外：縦線状（部分）している下の破片は表面が荒れている。内：縦線状一ナゲにより平滑。	外：赤褐色。内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
404	K8-24	胴部（下半）。	外：縦線状一帯縦線状。内：縦線状。	外：赤褐色。黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
405	K8-206-K E-56	胴部（下半）。	外：弱い縦線状一帯縦線状一ナゲ。内：ナゲ。	外：赤褐色。内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
406	K8-206-K E-56	胴部（下半）。	外：縦線状一帯一ナゲ。内：縦線状・下半部荒れている。	外：赤褐色。内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
407	K7-99	胴部（下半）。	外：弱い縦線状一帯縦線状一ナゲ。内：ナゲ。	外：黄褐色・濃い赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
408	K8-104-K E-46	胴部（胎粒付込）。	外：縦かい異方向の縦線・ナゲ。内：荒れている。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
409	K8-36	胴部（胎粒付込）。破片下層付近のゆるぎ同心円状溝あり。	外：ゆるぎな縦線状一ナゲ。内：ナゲ。	外：赤褐色・濃い赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
410	K7-42	底面。丸底。	外：縦へう状工具によるナゲ。内：ナゲ。	外：内：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
411	K8-56	底面。丸底。	外：縦線状。極めて平滑で光沢がある。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
412	K8-25	底面。小平底。	外：弱い縦線状。底面荒れている。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
413	K8-26	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
414	K8-33	土製円盤。胴部。周面打ち欠き。	外：縄文丸。内：ナゲ。	外：内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
415	K8-27	土製円盤。胴部（下半）。周面打ち欠き。	外：縄文丸。内：弱い縦線状一ナゲにより平滑。	外：内：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	
416	K8-27	土製円盤（胴部）。文様。	外：縄文丸。内：ナゲ。	外：内：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
417	K8-43	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：縄文丸の不明。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
418	K8-26	土製円盤。胴部（上半）。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲにより平滑。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
419	K8-54	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：縦線状一ナゲにより平滑。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
420	M6-54	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲにより平滑。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
421	K7-3	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：荒れている。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
422	L5-86	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲにより平滑。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
423	K8-43	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸（部分）荒れている。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
424	M7-51	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲ。	外：黄褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	黄褐色。胎粒・磁石異状。	
425	M7-3	土製円盤。胴部。周面打ち欠き一部の凹線。	外：縄文丸。内：ナゲ。	外：赤褐色。胎粒・磁石異状。胎粒・磁石異状。	赤褐色。胎粒・磁石異状。	



## 第8節 上谷遺跡出土の土偶・動物形土製品・土製品

越川欣和

### 第1項 報告

上谷遺跡からは動物形土製品1点、土偶3点、土製品・粘土塊数点、いずれも遺物包含層から出土している。残存状況の良好である遺物は図化し、以下に報告する。

#### 第1 土偶 (図198-1~3)

1~3は土偶である。1は土偶の腕で、2・3は逆三角形土偶である。

1はK6-58-3グリッドより出土した。厚さの変化で腕が捻じれたように表現している。長さ30mm、高さ14mm、幅10mm、重さ8gを測る。2、3はK8-44-26グリッドの包含層より出土した。下部に折断の跡がある。形は三角形である。正面と背面には、指頭圧痕がある。文様はない。2は内部に穿孔がある。長さ40mm、高さ27mm、幅10mm、重さ8g。3は無文で穿孔がない。長さ31.5mm、高さ24.5mm、幅9.5mm、重さ7g。帰属時期は、伴出土器と土偶の形態から縄文時代早期である。

#### 第2 土製品・粘土塊 (図198-4~9)

4は土製品である。形は三角形状であり厚さは薄い。正面には施工具の押付文があり、表面は無文である。全体的に被熱している。長さ29mm、高さ29mm、幅10mm、重さ7gを測る。

5~9は粘土塊である。粘土塊は5点出土した。その中で4点図示している。粘土塊の表面は調整され、文様はない。被熱されている。

5~7は粘土塊の表面が綺麗に調整されている。5はK8-56-3グリッドより出土した。形はドングリ状であり、左面はつままれ、右面は突出している。長さ36.5mm、高さ18.5mm、幅19.5mm、重さ11gを測る。6はK8-56-16グリッドより出土した。長さ32.5mm、高さ19.5mm、幅15mm、重さ7gを測る。7はM7-51-3グリッドより出土した。裏面・上面に押付けがある。長さ29mm、高さ20mm、幅21mm、重さ6gを測る。いくつかの粘土をまとめて作られた粘土塊である。8はL5-85-2グリッドより出土した。長さ31mm、高さ29mm、幅21mm、重さ16gを測る。帰属時期は、いずれも伴出土器から縄文時代早期であろう。

#### 第3 動物形土製品 (図198-10)

9はK8-36-2グリッドより出土した。イノシシ形である。頭部は突出する。左目のみ刺突、耳は粘土の貼付で表現され、口・鼻は表現されていない。背はつままれており、後部では右側に曲がる。背に細い穿孔がある。尾は粘土をつまんで表している。四足は短い。土製品の表面には調整のあとがある。文様はない。残存状況良好で、ほぼ全体が残る。長さ36.5mm、高さ23mm、幅21mm、重さ13g。製作時期は伴出土器と動物形土製品の類例が縄文時代中期にみられることから、五領ヶ台式期のものであろう。

### 第2項 考察

#### 第1 土偶について

はじめに

上谷遺跡では、遺物包含層より土偶が出土した。形態は逆三角形である。乳房などの表現はなく、無

文である。穿孔を持つもの(2)と持たないもの(3)がある。穿孔は焼成前に形成されたもので、開口部が扁平な四角形で断面は長方形である。穿孔内部は擦痕していない。K8グリッドの遺物包含層の主体的な土器型式は稲荷台式であるが、花輪台式も見られる。逆三角形土偶の時期は、夏島式期の両国沖田遺跡(篠原1986)が見られるが、木の根遺跡(篠原1986)を典型とし稲荷台式期とされ(原田1991)、上谷遺跡の土偶も伴出土器から稲荷台式期の蓋然性が高い。花輪台式期も否定しきれないものの、稲荷台式期の範疇で理解できる。

## 2 燃糸文期の土偶

燃糸文期の土偶は、「発生期の上偶」であり、「逆三角形土偶」と「ヴァイオリン形土偶」が存在することが指摘されている(原田1991, 1995)。逆三角形土偶は、胴部を逆三角形で表現し、乳房の表現や穿孔を持つものと持たないものが存在することが指摘されている(篠原1986, 原田1991)。

上谷遺跡の2例は逆三角形土偶であり、乳房の表現は無く、穿孔を持つものと持たないものがある。この逆三角形土偶の形態と穿孔についての意見は、土偶の形成過程の痕跡とする説(篠原1986)と、人体様表象のひとつとする説がある(原田1991)。前者は「組み合わせ土偶」の存在を仮定し、穿孔や連結部をジョイントで連結し頭部・胴部・脚部のパーツを連結し、土偶が形成されたとするものである。しかし、芯棒の存在・連結した土偶が発見されたものがない現在では、実証が困難である。また、穿孔のない土偶について十分な説明がないという問題がある。後者は、逆三角形土偶は、胴部を逆三角形に表現し、穿孔は内部器官が表現したというものである(原田1991)。穿孔が人体様表象の一つと判断するのであれば、穿孔のないものは人体様表象の省略されたものと考えられ、穿孔を持たない逆三角形土偶を同じタイプの土偶として判断することは可能であろう(註)。ただし、原田氏の意見は概念論的であり、更なる論議が必要であろう。上谷遺跡例は、穿孔のあるものとなないものの存在、穿孔内部に擦痕がないことから、「組み合わせ土偶論」は考えにくい。胴部の表現と内部器官を表現したとする原田氏の意見を追認する資料といえよう。

ところで、金子氏の見解では土偶の定義には明瞭な人体様表象の存在が必要とされ、逆三角形の土偶あるいは土製品としての位置づけに検討がもとめられるという(金子1991)。上谷遺跡の土偶は人体様表象が乏しいことから、逆三角形の土製品としての位置づけも検討する必要がある。ただし、人体様表象の明瞭な表現についての基準は、研究者によって異なり、土偶と土製品の明確な位置づけは難しいであろう。

燃糸文期の土偶の分布は、稲荷台式期の北総台地の遺跡に集中している(原田1991)。上谷遺跡の土偶の分布も共通している。したがって、縄文文化の土偶の出現は東関東における特有の文化現象のひとつであることが(原田1991)、追認されたといえよう。

おわりに

上谷遺跡の土偶は燃糸文期の土偶と共通することが明らかにされた。ところで、逆三角形土偶の問題は刺穴の意味と人体様表象が乏しいことに尽きる。道具の形態はその使用目的に起因するので、資料の観察に基づく型式学的検討、および機能・用途から考えればよい。更なる資料の蓄積をまって、燃糸文期の土偶について明らかにしていきたい。

## 第2 動物形土製品について

はじめに

上谷遺跡では、動物形土製品がK8グリッドの遺物包含層から発見された(図198-9)。縄文時代中期初頭に帰属する。関東地方の動物形土製品の起源を求める上で貴重な資料である。ここでは上谷遺跡の

動物形土製品に注目し、関東地方の動物形土製品の出現期の様相を明らかにすることを目的とする。

## 1 上谷遺跡の動物形土製品

上谷遺跡の動物形土製品の動物種はイノシシである。製作技法は精製であり、文様はないが、表面は研磨され丁寧に作られ、背にはミノ毛が表現され、動物の動きを写実的に表している。サイズは長さ36.5mm、高さ23mm、幅21mmであり、関東地方の動物形土製品の中では、小さいサイズである。縄文時代中期初頭に帰属する(23)。

## 2 関東地方の動物形土製品の出現

江坂氏は動物形土製品について論考を発表している。その中で、縄文文化で最古の動物を模した土製品は、縄文前期末の関東地方にみられる獣面把手であることを指摘している(江坂1974)。縄文時代前期には動物意匠を口縁に持つ土器が発見されている。類例に、東京都四葉地区遺跡、群馬県神保植松遺跡、埼玉県堂山公園遺跡、千葉県飯山満東遺跡などがある。これらの動物意匠は、土器の装飾であり、動物単体を表現した動物形土製品とは異質である。型式学的にも、動物形土製品とは系統が異なる。しかし、動物形土製品が出現する前段階に、動物意匠遺物が存在したことは注目できる。縄文時代前期の動物意匠は、動物形土製品の出現に重要な意味を持っていたと指摘できる。

関東地方の縄文時代中期の動物形土製品は、上谷遺跡・東京都多摩ニュータウンNo471遺跡(以下、TNT471と記述する)(小栗1989)、東京都八王子市南八王子地区No17遺跡(以下、南八王子17と記述する)(岡塚1988)がある。TNT471遺跡例・南八王子17遺跡例はイノシシ形土製品である。出土状況は遺物包含層からの発見であり、残存状況は良好である。製作技法は精製であり、文様はない。表面は丁寧に作られ、背がつままれ、ミノ毛が表現され、写実的に表現される。南八王子17遺跡例は腹部に連続した刺突で乳を表現しているが、TNT471遺跡例にはない。サイズは両者とも小型である(23)。

縄文時代中期の動物形土製品の共通した特長は製作技法と形態に見ることができる。製作技法が精製技法で表面が丁寧に作られている。動物種はイノシシであり、頭部が丁寧に表現され、頭部・胴部・脚部・尾部のバランスが良く写実的に製作されている。無文である。そして、サイズは小さい。以上のことから、型式学的にもこれらの資料はひとつのタイプであることが指摘できる。確かに若干の差異はあるものの、その違いは各々の遺物の特性を表すもので、タイプの枠を超えるものではない。また、出土状況に着目すると、残存状況が良好である点や、遺物包含層からの発見という共通性が指摘されよう。

関東地方の動物形土製品の出現期は、TNT471遺跡例が中期中葉(勝坂I式期)、南八王子17遺跡例は中期後半(勝坂式~加曾利E式期)ということから、縄文時代中期と推測されている(小栗1989)。今回の上谷遺跡例は中期初頭(五領ヶ台式期)であることから、動物形土製品の出現期は縄文時代中期である可能性を追究するものであり、また、その時期を遡らせる可能性をもつ資料と評価できる。

千葉県は動物形土製品が数多く発見される地域の一つである。縄文時代後・晩期には、大規模の集落遺跡から多数の動物形土製品が発見されているが、縄文時代中期の動物形土製品はほとんどない。したがって、上谷遺跡の動物形土製品は、動物形土製品の出現・発展について求める上で重要な資料である。おわりに

上谷遺跡の動物形土製品の製作時期は縄文時代中期初頭であり、出現期の資料の一つである。中期の動物形土製品は、丁寧に製作技法・無文・写実的形態という共通性があり、動物形土製品の形態からも一つのタイプとして考えられるであろう。また、出土状況・残存状況にも共通性が確認された。この結果、動物形土製品の出現期の縄文時代中期の特徴が明らかにされた。動物形土製品の出現・盛衰は、形態と製作技法の変化により明らかにされる。動物形土製品は、人の動物利用を示す遺物の一つであることから、動物種やその形態属性から、縄文人の動物観念の側面が求められるはずである。資料情報の蓄積

を行い、人の動物利用についてアプローチしていきたい。

#### 註

- (1) なぜなら、人体様表象には大半のものに表現されながらも、省略されるものも数多いからである。例えば、乳房の表現が良い例であろう。
- (2) 上谷遺跡の動物形土製品の時期は、主体的な伴出土器は燃糸文系土器様式であることから、さらに古い可能性がある。しかし、周辺の遺跡の状況などを考慮して、縄文時代中期初頭と考えるべきであろう。
- (3) 動物形土製品のサイズは、TNT471遺跡例は、全長43mm、幅2.0mm、高さ3.1mm（小葉1989）、南八王子17遺跡例は全長6.3mm、幅2.8mm、高さ3.2mmである（関塚1988）。

#### 引用文献

- 江坂輝彌 1974.7 『古代史発掘 3 縄文時代2 土偶芸術と信仰』江坂輝彌・野口義磨編 講談社（東京）
- 小葉一夫 1989.3 「(資料紹介)多摩ニュータウンNo.471遺跡出土のイノシシ形土偶」『研究論集』東京都埋蔵文化財センター（東京）
- 金子直行 1991.3 「3.燃糸文期の土偶について」『小室上台遺跡』船橋市教育委員会 船橋市遺跡調査会 本覚寺（千葉）
- 篠原 正 1986.3 「金堀遺跡出土の土偶に関する一考察—縄紋時代草創期後半の土器と土偶—」『財団法人 印旛郡市文化財センター 研究紀要』1 財団法人 印旛郡市文化財センター（千葉）
- 関塚英一 1988.3 「Ⅲ No17遺跡」『南八王子地区遺跡調査報告』5 八王子市南部地区遺跡調査会（東京）
- 原田昌幸 1991.3 「Ⅳ 燃糸文系土器様式と早期の世界の研究」『61 燃糸文系土器様式』ニューサイエンス社（東京）
- 原田昌幸 1995.2 『日本の美術』第345号 土偶 至文堂（東京）

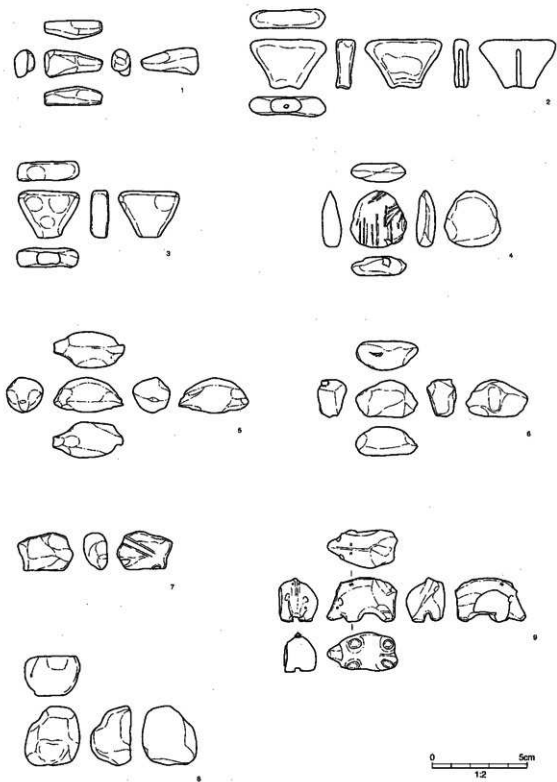


圖198 土偶・土製品・粘土塊



上谷遺跡V地区遺構検出状況



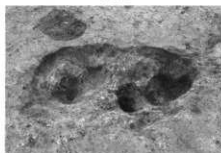
上谷遺跡V地区遺構検出状況



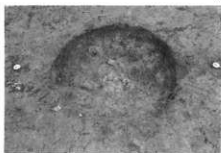
A227



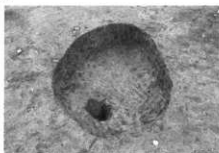
F302



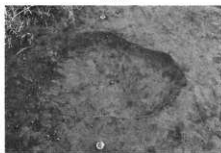
F303



F304



F305



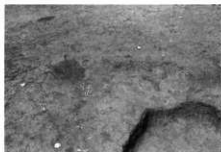
F306



F308 · D288



F309



F310



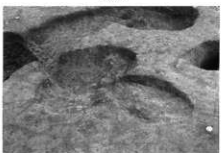
F312



F313



F314



F316



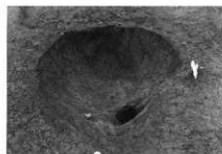
F317



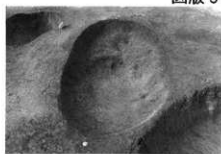
F318



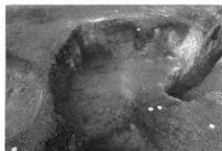
F319



F320



F321



F322



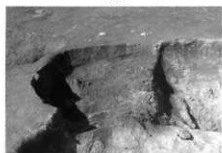
F323



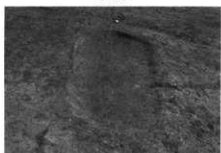
F324



F325a



F325b



F326



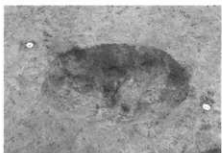
D277



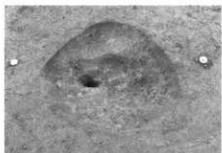
D278a - b



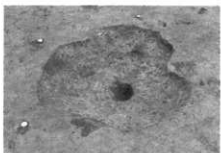
D279



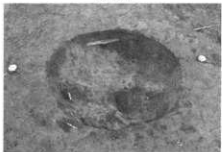
D280



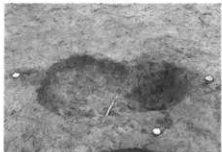
D281



D282



D283



D284

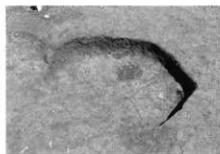


D285





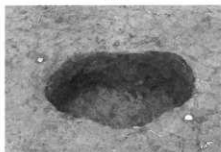
D286



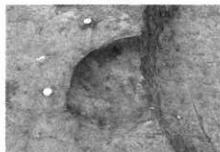
D289



D290a・b



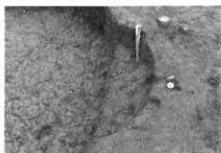
D291



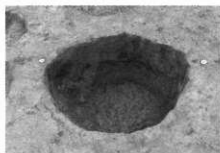
D292



D293



D295



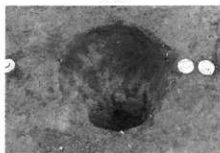
D296



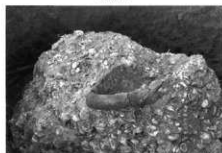
D297



D299



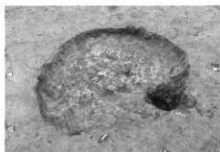
D300



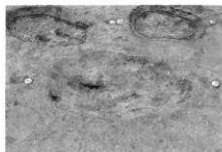
D301



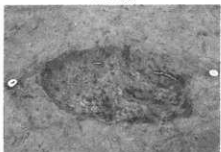
D301(2)



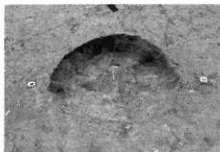
D302



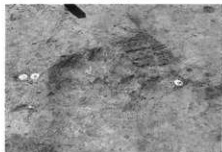
D303



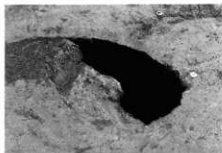
D304



D305



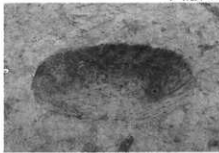
D306



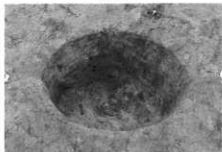
D307



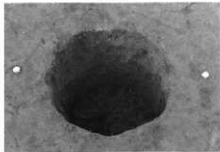
D308



D309



D310



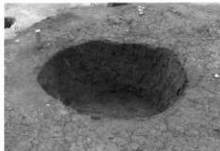
D313



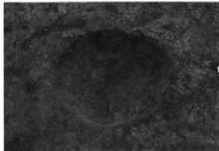
D314



D315



D316



D332



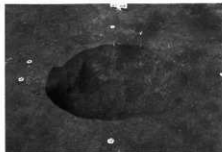
D334



D350



D350(2)



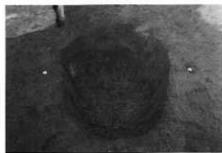
D351



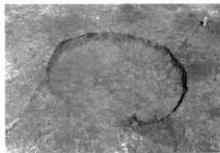
D352



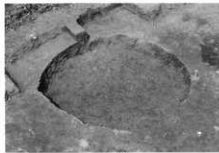
D352(2)



D355



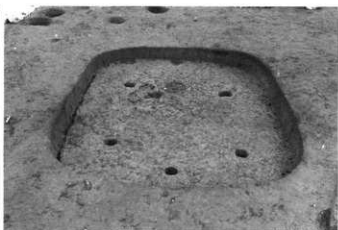
D362



D363



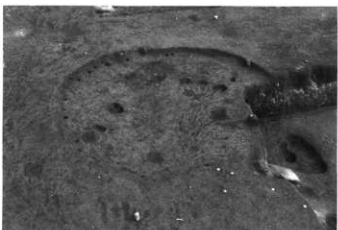
A230



A234



A235



A238a



A241a



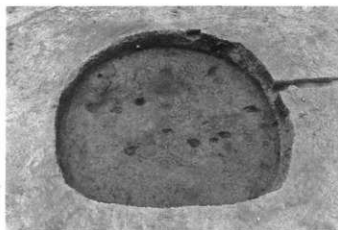
A249



A251a



A255



A259



A264



A226



A226(2)



A228



A229



A231



A232



A232(2)



A233



A236



A237



A238b



A239



A240



A241b



A242



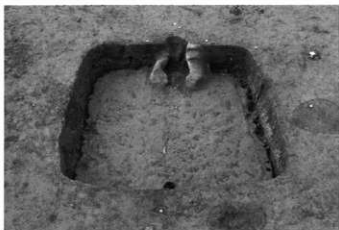
A243



A244



A245



A246



A247



A248a · b



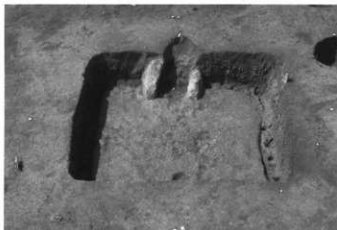
A250



A251b



A252



A253



A254



A256



A257



A258



A260



A261



A262



A263



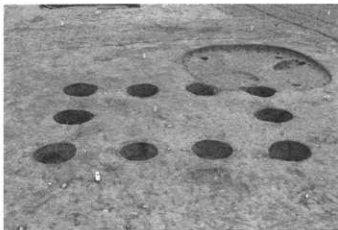
A265



B125



B126

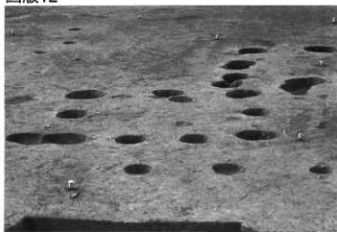


B127



B128a · b





B132



B133



B134a · b



B135a · b



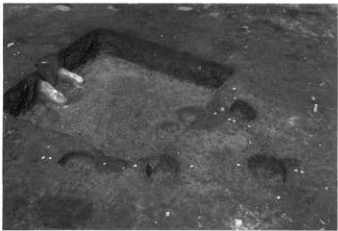
B136



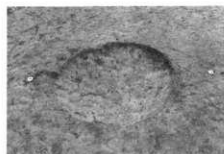
B137



B138



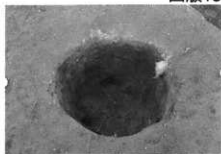
B139



D287



D298



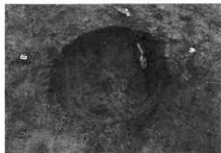
D317



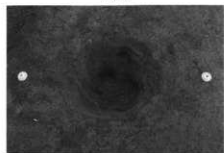
D318



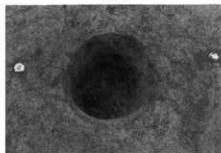
D333



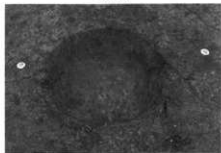
D335



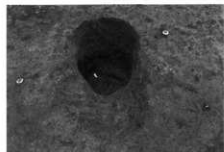
D336



D337



D338



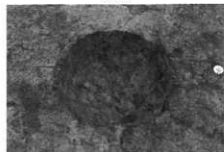
D339



D340



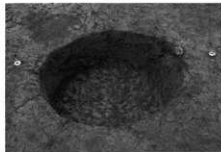
D341



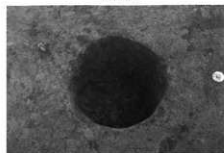
D342



D343



D344



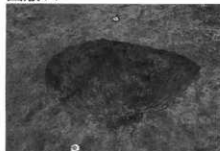
D345



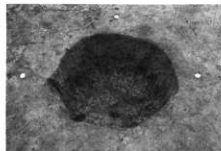
D347



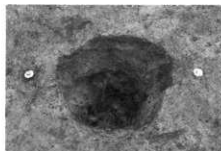
D348



D349



D353



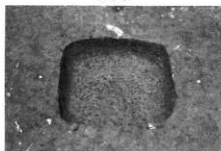
D354



D294



D319



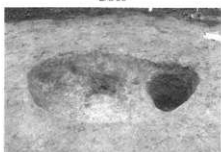
D346



D356



D357



D358



D359



D361



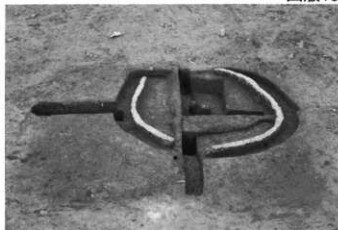
A242 調査風景



A244 調査風景



D322



D331



E004



E005



1

A227



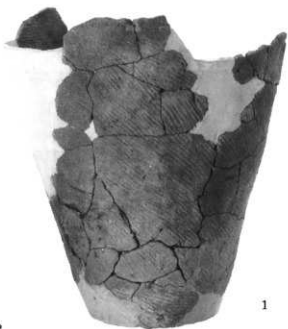
2



4-1



2



1



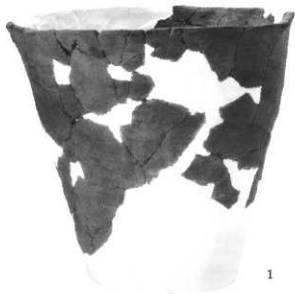
4-2



6

F305

7-2



1

F311



F322-2



F322-1



A234-1



A234-2



A238 a-4



A238 a-8



A241 a-10



A241 a-11



A241 a-12



A249-1



A249-2



A249-4



A249-3



A249-7



A249-5



A249-6



A249-8



A259-2



A259-3



A259-4



A264-5



A264-6



A264-11



A264-7



A264-17



A264-10



A264-12



A264-13



A264-9



A233-13



A233-118



A236-2



A236-5



A233-14



A233-15



A233-19



A236-41



A236-6



A233-127



A233-20



A233-42



A236-9



A236-7



A236-3



A236-11



A236-10



A237-2-2



A238b-2-2



A238b-23



A237-9



A239-1



A239-12



A239-9



A239-2



A239-13



A240-2



A240-3



A240-9



A240-5



A241b-17



A258-1



A258-2



A258-7



A258-3



A258-4



A258-8



A258-5



A258-39



A258-40



A258-24



A258-19



A258-25





A226-1(人面部分)



A226-7



A226-16(朱書)



A233-46



A242-39



A233-53



A256-1



K8-43-3G



A265-67



A226-1 (文部分)



A258-39



A258-40

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよしかみやいせき(かしょう) やちよカルチャータウンかいはつじぎょうかんれんまいぞうぶんかざ いちようきほうこくしょⅡ
書名	千葉県八千代市上谷遺跡(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
巻次	第5分冊
編集者名	朝比奈竹男・宮沢久史
編集機関	八千代市遺跡調査会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 (八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内) TEL.047-483-1151
発行年月日	西暦2005年(平成17年)3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中 上谷遺跡	ちよよしほしちあひかみ 八千代市保品字上谷1786他	12221	77	35度 45分 24秒	140度 7分 50秒	19920407～ 19921014  19950710～ 19960219  19960401～ 19970331  19970401～ 19980331  19980401～ 19990331	総面積 114,300㎡	住宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上谷遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 1基 土 坑 44基 炉 穴 29基	縄文土器、石器	
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 11軒	弥生土器、石器	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 32軒 竪立柱建物跡 18棟 土 坑 31基	土師器、須恵器、鉄製品	墨書・縄刻等の文字資料を 多く出土
	包蔵地	中近世以降	土 坑 13基 溝 2条		井戸伏遺構含む

千葉県八千代市

## 上 谷 遺 跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

— 第 5 分冊 —

---

---

2005年3月31日発行

編 集 八千代市遺跡調査会  
千葉県八千代市大和田138-2  
(八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内)

発 行 大成建設株式会社  
東京都新宿区西新宿1-25-1

---

---